

## カスタムテンプレート機能

DeviceExpert は、ネットワーク機器へコンフィギュレーションを反映させるためのコマンドをテンプレートとして登録できます。テンプレートを作成することにより、頻繁に使用したいコンフィギュレーションやネットワーク内の複数のネットワーク機器へ同時にコンフィギュレーションを設定したい場合に非常に有用です。

## 作成手順

テンプレートを作成する場合は、[Admin]タブより[Device Management]内の[Custom Templates]を選択し、投入するコンフィギュレーションを[Template Content]に入力します。テンプレート内に入力するスクリプトの内容として、実際にネットワーク機器へログインし実行するコマンドラインを入力することが可能です。

- (1) [Admin]タブ-[Custom Templates]を選択します。
- (2) [Custom Templates]画面にて[New Template]をクリックします。

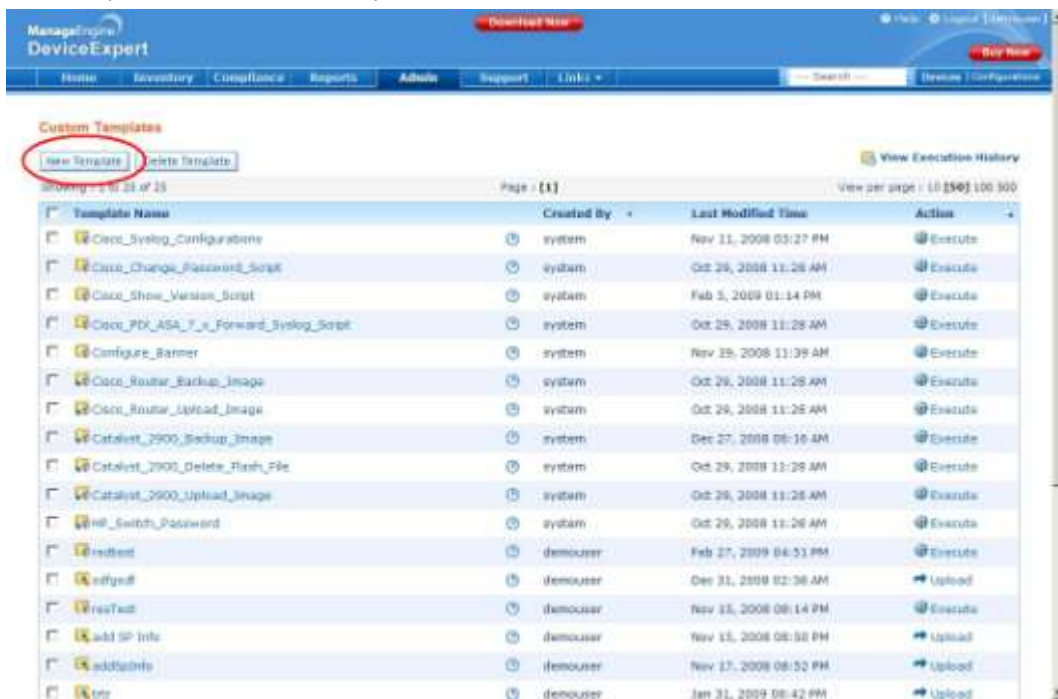


図 1

(3) 指定項目に入力および Execution Mode を選択します。

[Template Content]に実際に投入するネットワーク機器のコマンドを記載します。

任意の文字列を%(パーセント)で囲むことにより、スクリプト実行直前に値を入力できるようになります。

装置により、インターフェース名が異なる場合やパスワードを変更したい場合には、変数を設定することにより型番が異なった場合でも同じスクリプトで対応できます。

(※現在のバージョンでは日本語入力はサポートしておりません)



図 2

表 1 Custom Template 実行モード

実行モード	解説
TFTP File Transfer Mode	TFTP 経由でスクリプトを実行します。
Script Execution Mode	コマンドラインで実行します。 ネットワーク機器へのアクセスは、Credentials で設定した telnet または SSH のいずれかの方法によりアクセスし、コマンドを実行します。 SNMP-TFTP モードでの接続はサポートしておりません。
Advanced Script Execution Mode	対話形式でのスクリプト作成をサポートしています。 このモードは、OS Images のアップグレードやバナーメッセージの編集、ネットワーク機器のフラッシュ内のファイルを削除する等々の目的で使用できます。

## カスタムテンプレート実行手順

- (1) 実行対象のスクリプトを選択し、[Execute]をクリックします。  
ここでは、Cisco 機器のパスワード変更 を例として記載します。

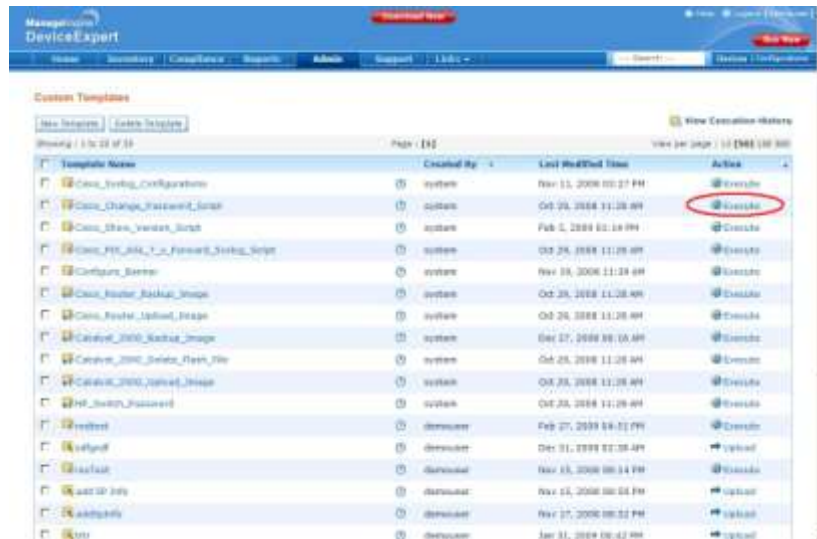


図 3

- (2) 作成したスクリプト内の%(パーセント)で囲んだ箇所が実行時に入力できますので、新しいパスワードを入力します。  
[Preview]ボタンをクリックすると、実際に実行するコマンドを確認できます。  
その後、実行対象の装置を選択します(または“Select Device Group”を選択するとグループに対して実行します)。  
対象装置を選択後、[Execute]をクリックするとテンプレートが実行されます。

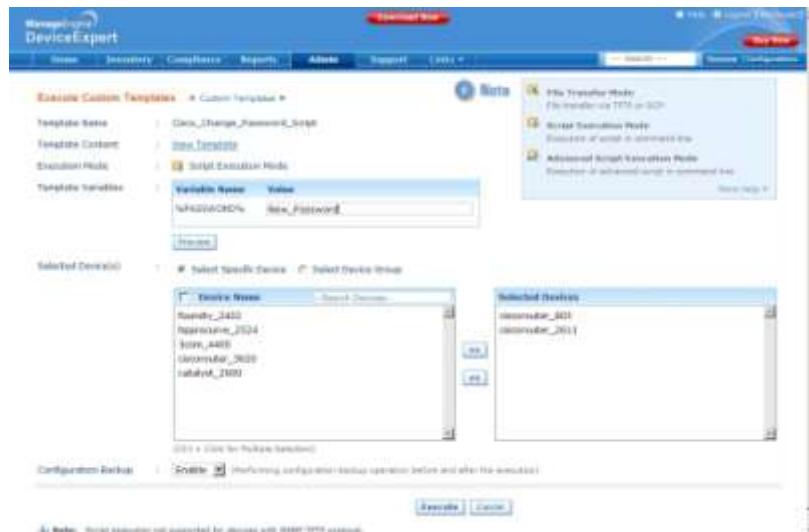


図 4

- (3) [Execute]をクリック後は、実行中のステータスを確認できます。  
[View]をクリックすると、各機器のステータスを確認できます。

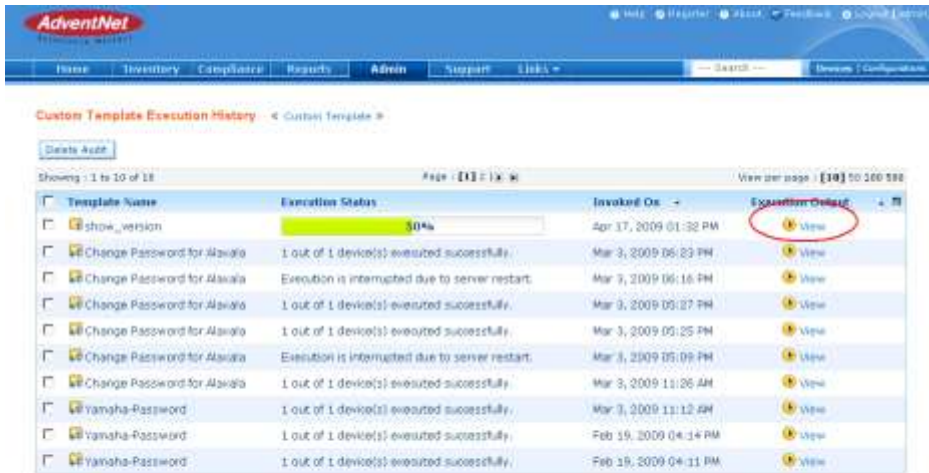


図 5

また、履歴については[Admin]タブ-[Custom Templates]内の [View Execution History]から参照することも可能です。

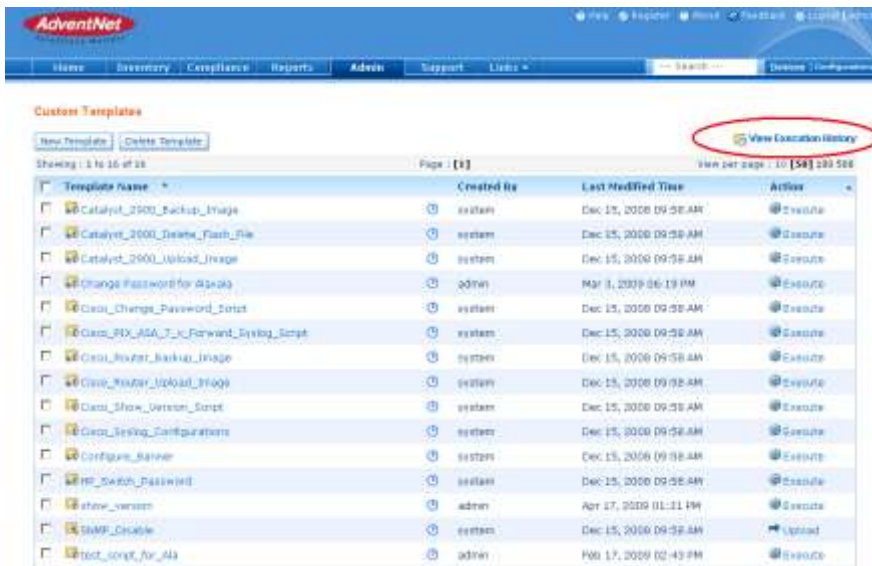


図 6